実践報告 小学校体育授業へのテニス導入

小学校の体育授業でのテニス指導に向けて必要な指導と評価方法

発　表　者：石原保彦（Web & Document Solution あどあど　茨城県テニス協会）

指導・監修：長谷川悦示（筑波大学　准教授）・蝶間林利男（横浜国立大学　名誉教授）

実践検証のキッカケ

2017 年に文部科学省により小学校の体育指導の新しい学習指導要領の解説の中に体育で指導できる一例としてテニスが紹介されました。学習指導要領解説に記載されたということは、小学校の先生方に「テニスの選択肢」を与えたということです。しかしながら現実には小学校でテニスを体育授業に取り入れているところがありません。というより取り入れることができないまま放置されている状態です。

北茨城市教育委員会様のご理解とご協力により茨城県テニス協会の指導者講習会を茨城県北茨城市関本小中学校で開催することができることになり、指導者講習会用に教員に向けた学校体育でのテニス導入のための指導教本を作成することになり、横浜国立大学名誉教授　蝶間林利男先生と筑波大学体育科教育学の長谷川悦示准教授のご協力のもと教材を作成

指導者講習会教材を元に、実際の学校での体育授業でテニス授業を行い、検証したいと思い、筑波大学体育科教育学研究室の長谷川悦示先生と交流のある東京都の豊洲西小学校に協力を依頼したところ、オリンピックのテニス会場でもある有明に隣接していることもあり、テニスへの関心も高く、快く受けていただき、3 時間の体育授業でのテニスを実践することができた。

実践を目指して教材開発

1. 小学校体育でのテニス指導に必要な指導教材作成

横浜国立大学名誉教授　元デ杯トレーナーを務めた経験もある蝶間林利男先生のご指導のもと、テニスの基本的な運動に必要な

- コーディネーション能力開発
- ラケットと体の関係を体感し、体得する
- コーティシーストローク
- 軸とバランス、リズムとタイミングを覚える
- コース打ち分けを楽しむ
- 小学校体育での時間配分
- 学校体育でのテニスにおける評価：定量化と定性化
- 指導案の例

など

基本練習の指導方法を教師用教材として作成

2. 指導教材を元に模擬授業でプログラム開発

1. で作成した教材を元に、小学校での授業展開に必要なプログラムを筑波大学体育科教育学の長谷川悦示先生の指導のもと開発

- きょうだいチーム制：4～5 人で 1 チームとし 2 チーム 1 きょうだいとして、一緒に練習し、他のチームとの対戦の時の応援や審判・BP をして共同成果を求める
- 赤白帽の利用
  最初は全員白帽子でプレーし、ポイントしたら赤ぼうしに変化させ全員参加を見える化
- 小学校体育用のカウントとスコア
  ラリー回数をポイントとし、長くラリーを続けて多くのポイントを得る特別ルールで実施
- きょうだいチーム得点、クラス得点の設定
  全員参加と達成感を見える化 クラス得点：富士山 3776 設定

実践を通して課題抽出

3. 小学校授業でのテニス授業の実践

ラリーをつなぐことを主目標とした 3 時間の体育授業

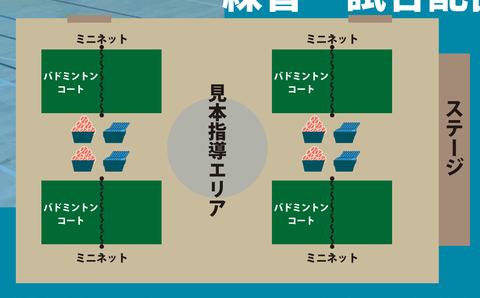
①会場とレイアウト・道具
会場は体育館とし、雨天や荒天時対応
道具としては今回はミニネット 4 張、レッドボール 200 個
ジュニアラケット（21～25inch）40 本、カゴ 8 個（各コート 2 個）を用意し、右の図のように配置

②学習指導で安全確保の説明をし、コーディネーショントレーニングを取り入れた準備運動（足じゃんけんなど）、ボールスロー＆キャッチののち体育館センターでラケッティング見本など行い、各グループでコートに分かれてラケットとボールを使って感覚を向上させる運動

③説明>>グループで運動学習>>認知学習>>グループで運動学習を繰り返し、自分たちで考えながら上達を目指すプログラム

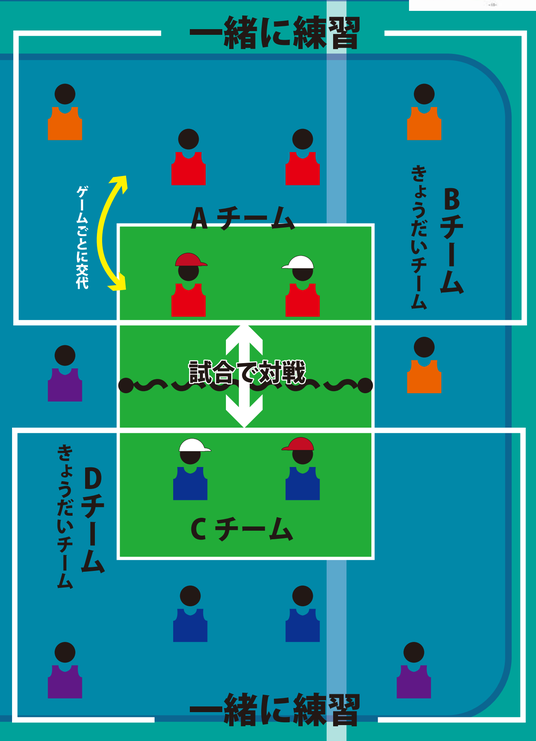
④教師行動を録画し、さらに授業分析アプリ L・S・A を使って時間の使い方や声がけ分析し、次の授業での効率と効果の向上に務める

コートレイアウトと練習・試合配置



- 道具をあらかじめ各コートに配置し、マネジメント時間節約
- 見本など学習指導や各コートへの移動を効率よくするために学習指導エリアをセンターに
- 教師が各コートでの練習に目を配り、声がけしやすい巡回
- 道具の片付けも各コートごとにバスケットに片付けるだけにし時間節約に努めた

- きょうだいチームで認知学習し、一緒に練習
- 対戦は別のきょうだいチームと
- 4 名 1 チームで 2 名コートに入り 3 分でローテーション
- サポートしているきょうだいチームが数を数えて記録

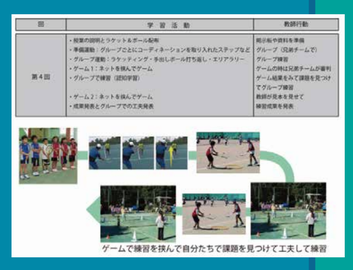


4. 授業の進行に伴うプログラム

1 時間目：コーディネーション中心
体の基本的な動かし方、ラケット、ボールとの感覚の向上を目指し、ラケットでボールを打てることをメイン

2 時間目：コーディネーションからラリーへ
- 準備運動：ラケッティング～手出し打ち返し
- エリアラリーからネットを挟んでラリー
- ネットから少し離れて長い距離でラリー

3 時間目：ラリーからゲームへ
- きょうだいチームで協力してラリー数を増やす
- 5 往復続くと一人赤帽子　赤帽子の数かけるラリー数でスコア
- きょうだいチームで役割分担と協力した合同練習
- 学習指導過程は「前半ゲーム（2 分 ×4 回）→きょうだいチームでの話合い＆練習→後半ゲーム (2 分 ×4 回)」として、8 回のゲームを実施。
- ラリー回数 × 赤帽子数をチームスコアとして記録し、クラス得点 3776 点を目指した。



5. 体育授業でのテニス実施の結果

- 個人の能力差は歴然とでた。
- 子供たちは常に動き回り、一定以上の運動量確保はできたと思う
- 認知学習場面ではできる子ができない子にコツの伝授をする場面が見られた：何もできない・何もしない子を作らなかった
- チーム（自分のチーム・きょうだいチーム）での目標を定め、達成することを最大の目標に掲げたため、能力のある人だけが活躍するのではなく、全員で取り組み、目標を達成する姿が見られた。
- 口頭での感想ヒアリングでは大多数の子供達が「楽しかった」「またやりたい」「もっとやりたい」との意見を聞くことができた。

3 時間にみの授業だが、コーディネーション>>グループ練習>>ゲーム>>スコア管理まで一通りできるようになり、次回への期待感もあった

より現実的な授業へ

実践を通して見えてきた今後の課題

①道具の手配
現在の公立学校にテニス道具はないので道具の整備がまず必要

②教師の指導力
テニスの指導書にはコーチング系が多く、学校教育現場でのテニス指導（特に小学校）は皆無に近い・・教材の開発が急務と同時に教員への安全管理を含めて指導講習会も必要

③ラリー出るようにするには
1）グリップが結構大切：フォア、バックともに使える EASTAN か？
2）ポジショニングが大切：打ったら次に備えて戻るといった指導

④子供の反応：アンケート調査等により、子供目線での楽しみの発掘

⑤個人の評価と成績判断基準の確立

⑥子供の運動量と運動能力向上との相関を明らかにし、より効果的プログラムの開発が必要

⑦実証実験を積み重ね、時間の使い方、教師行動など詳しく授業分析を重ねながら学年や回数に応じた基本プログラムの構築が必要

現場への提言

◆体育教員に対して
- テニスは授業に取り入れることで子供の運動能力、思考力の開発に役立つので積極的に導入してほしい
- テニスラケットは硬く、重いので安全管理が重要
- テニスレッスンと体育授業でのテニスは異なる・・・単なるスポーツではなく学校教育として方法を考えるべき
- 子供達のモチベーションは・・・打てること>>続くこと>>勝つこととスキルアップに伴い変化する
  それぞれの場面でのモチベーションアップのための指導方法を常に考える必要がある
  ★何もしない、できない子を作らない！
- 子供の技量の成長に大きな差が出るので、モチベーションアップと維持が重要
  そのためにもスコアの付け方など工夫し、従来のルールにとらわれず、全員で目標達成に迎えるプログラムを
  例えばラリー数の勝ち組総取り（8 回目でエラーすると相手に 8P）決めた人が赤ぼうしで二人とも赤なら
  ポイント 2 倍など
- 成績も関係するので個人個人の評価の基準の明確化が必要

◆テニス界に対して
小学校の体育授業でテニスを体験し、楽しみを覚えることが将来的にテニスの人気やテニス人口増加への礎になる
日本テニス協会はじめ、地区テニス協会もそこに投資（道具提供など）を！！

◆テニス関連事業者・地域テニス関連団体に対して
地域でのテニス指導者の育成にもコーチングのみならず学校体育での指導ができる人材育成も必要